

サークル活動完了報告書

サークル名	持参薬どうにかし隊	発表者	楨原 智子
		リーダー	楨原 智子
部署	医療安全	サブリーダー	原田 典明
活動期間	開始:平成24年6月25日 終了:平成25年1月18日	メンバー	田畑 麗子、田原 ルミ子 田中 孝一、小野 厚 赤木 武文
会合状況	会合回数 5回 1回あたり会合時間 90分		
所属長/推進メンバー	野田 宏美	所見欄	
レビュー担当者	(株)麻生 向野 早苗		

テーマ

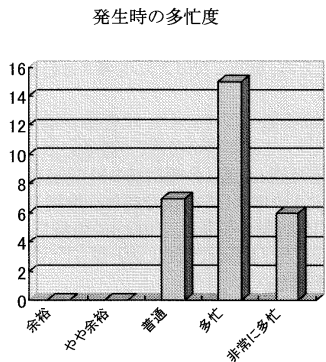
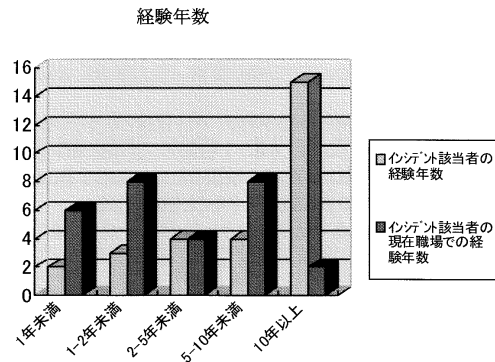
持参薬によるインシデント件数の減少を図る

テーマ選定理由

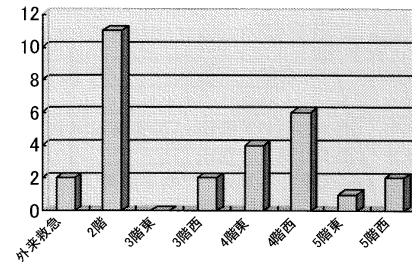
平成 23 年度の内服によるインシデントが 132 件あった。その中で持参薬のインシデントが28件ありその原因のほとんどは確認不足と思い込みであった。入院時に持参薬を持ってこられる患者様が多いため、持参薬によるインシデントを減らしたいと思いテーマに選定した。

現状把握

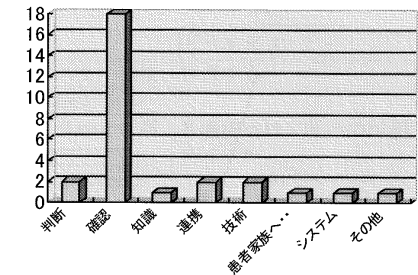
* 平成 23 年度のインシデントレポートから持参薬に関するインシデントを抽出し、インシデントレポートの項目(該当者の勤務年数、配属年数、多忙度、部署、要因)にそって原因となるものを考えた。



発生場所



発生要因



- ・勤続年数は 10 年以上が多かったが対象となる看護師の人数も多いため一番多くなるのは当然と思われる。
- ・配属年数はあまり変化はなかったが 3 年までと 10 年以上がやや多かった。
- ・多忙度は多忙時が一番多く、要因は確認が一番多かった。
- ・部署別では 2 階病棟が一番多く 3 東は 1 件もなかったがどの部署でもインシデントは起こる可能性がある。また、インシデントレポートを積極的に書か書かないかの差も病棟によりあるのではないかと考えた。以上のことから、年数や部署別に分析するには原因がつかみにくいと判断した。

* 次にインシデントの要因で一番多い確認ではどのような確認が不足していたのか分析した。

その結果次の 4 点にまとめることができた。

- ① 指示簿見落としや指示を受けた後の処理を忘れている。
- ② 患者が何の薬をどれだけ飲んでいるか本人に確認ができていない。
- ③ 配薬時に薬袋の用法や 1 回分の袋に記入してある、朝・昼・夕の確認ができていない。
- ④ 持参薬をすべて持参されているか、どのくらい持ってこられているかの確認ができていない。

この中で①②③の薬袋や用法、本人への内服確認をすることは院内処方・持参薬のどちらにも共通することである。持参薬を持ってこられたときに何日分持って来られているか確認ができていないことから、各病棟で持参薬の取り扱いをどのようにされているか、日数あわせをしているかアンケートを行った。その結果、確認や日数あわせを「しないときがある」、「しない」という病棟が多かった。

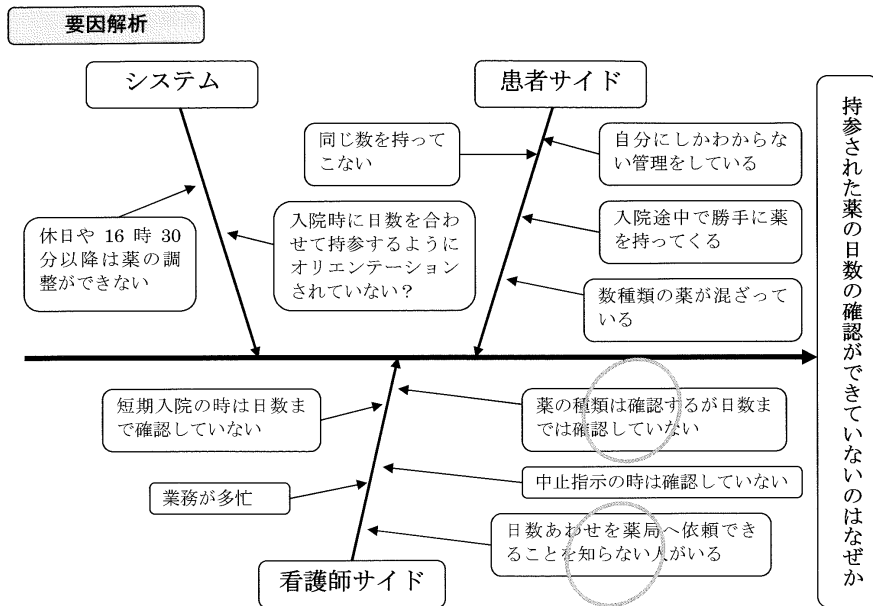
以上のことから

入院時に持参された薬が何日分あったかを把握しておくことでインシデントを減らすことができるのではないかと考えた。

目標設定

持参薬に関するインシデントを 20% 減少する

～持参薬を何日分持ってこられたか記録に残すことができる～



対策立案

持参された薬の日数を把握するためには

1次対策	2次対策	3次対策	効果	実現性	持続性	得点
入院時に薬の種類と数を知る	看護師が数を把握する	ポスターを掲示し啓蒙する	◎	◎	○	13
		持参薬の日数を記録に残す	◎	◎	○	13
		すべての持参薬を薬局へ日数あわせの依頼をする	◎	×	×	5
患者教育	システム変更	入院時患者が薬局へ持参薬を持って行き日数合わせ後病棟へ届く	◎	×	×	5
	入院時、日数を合わせて持参してもらう	◎	△	△	7	

対策実施

いつ	誰が	何を	どうする
11月中旬に	原田、楨原	実施に向けポスター作成と依頼文章、調査表	作成する
12月9日までに	田畑（5西、4西） 田原（3東、3西、2階） 楨原（5東、4東）	作成したポスターと依頼文章、調査表	各病棟へ取り組みの説明に行く

効果確認

- 期間中の内服薬に関するインシデントレポートは8件ありそのうち持参薬に関するものは1件もなかった
→20%減少を目標にしていたが100%減少し目標達成できた
- 各病棟で記入していただいた12月10日～31日までの間で持参薬を持って来られた61名の患者様のうち病棟で調整したものは19件、薬局へ調整を依頼したものは28件。その中で持参された薬の日数を記入したのは5件しかなく記入率は約8%しかなかった。

標準化

いつ	誰が	何を	どうする
入院時	担当した看護師	持参薬の日数	お薬手帳や薬の鑑別書のコピーに記入しカルテに取り込む
新人看護師のオリエンテーション時	新人教育担当	持参薬確認のフロー図	手順通りにできるよう教育する

反省と今後の課題

- 持参された薬の日数を記入してもらうことを目標としていたが、ほとんど記入がされていなかった。これは開始前の説明不足、啓蒙不足であったと反省する。
- 対策実施までに時間がかかったため、実施期間が短くなり効果判定が十分にできなかった。しかし、取り組み期間中は持参薬のことを意識して取り扱いができ、意識して取り扱うことでインシデントの発生も減らすことができるのではないかと。
- 持参した薬の日数をお薬手帳や薬の鑑別書に記入するよう手順の見直しが必要である。
- 入院時、何の薬をどれだけ持って来られたかを把握しておくことは看護を行っていく上で必要なことでもあるため、今後も日数の記入ができるよう啓蒙していきたい。